

清流ぎふ 絆の炎(ひ)

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の期間中燃え続け、東日本大震災の復興祈念の象徴となる「清流ぎふ 絆の炎(ひ)」は、47年ぶりの炬火リレーにより、県内全42市町村を県民5,400人がつなぎます。

7月16日に飛騨ほおのき平スキー場（丹生川町久手）で採火された炬火は17日までの2日間、のべ500人の市民ランナーがつなぎ、飛騨市へバトンタッチしました。



飛騨ほおのき平スキー場をスタートする第1リレー隊



今年の2月にあった冬季大会の少年女子大回転で5位入賞を果たした^み二保友里さん（飛騨高山高等学校3年生）が採火の大役を果たしました



古い町並をリレーする児童や保護者のみなさん



炬火リレーの初日ゴールとなった中山公園陸上競技場では、炬火歓迎イベントがありました



7月17日の炬火リレーでは、高山西高校や三枝小学校、国府小・中学校を経て、飛騨市へつなぎました

**沿道でのあたたかいご声援とご協力
どうもありがとうございました**

なお、支所炬火リレーも引き続きありますので、お問い合わせのうえご参加ください

問合先 国体推進課 ☎35-3185



東日本大震災被災者の末永賢治さんが初日の最終ランナーを務め、國島市長が炬火をとりました（中山公園陸上競技場）